

生分解性プラスチックの活用例



生分解性プラスチックのマルチフィルムを使用したレタス畑

環境にやさしい農地づくりから消費まで

農業を行うと、作業に使う機械や施設、ごみの処分などで温室効果ガスが排出されます。

そこで、ごみや二酸化炭素の排出量を減らす農業が進められています。また、環境に配慮した方法で作られた農産物を買うことで、消費者である私たちも環境に良い取り組みに参加することができます。



バイオ炭の活用例



バイオ炭を畑の土にまぜているところ(北総クルベジ)

土に埋めると消える！
生分解性プラスチックについては次のページへ

土にも地球にもやさしい「バイオ炭」

バイオ炭が農業にも環境にも良い効果があることを調査、研究している農研機構農業環境研究部門の岸本文紅さんにお話を聞きました。



開放型炭化炉で竹を加熱してバイオ炭をつくる様子(いすみ竹炭研究会)

バイオ炭が温室効果ガスを削減

岸本さんによると「バイオ炭とは、木などを酸素の少ない状態で、350度以上の温度で加熱してできた炭です。バイオ炭を土に混ぜると水や空気の通りが良くなり、土を元気に保つことができるため、昔から農業に利用されてきました」とのこと。バイオ炭の原料は、森林の整備のために伐り出された「間伐材」や持

ち主がいなくなり放置された竹林の「竹」、稲の「もみから」など、そのままではごみとなるもの。これらを燃やしたり、そのまま土に埋めて捨てたりするかわりに、バイオ炭にして活用すれば温室効果ガスのひとつである二酸化炭素の排出量を減らすことができます。

年間5000トンの二酸化炭素を減らす

岸本さんは「環境に良いと証明さ

れていることは大切です。バイオ炭を土に混ぜることで二酸化炭素の排出をおさえるという方法は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)のガイドラインにもあり、科学的にも国際的にも効果が認められている方法です」と話します。

また、「私たちはバイオ炭を農業に

利用することで、どのくらい二酸化炭素の排出を減らすことができるかを調べています。現在の日本でのバイオ炭による二酸化炭素の排出削減量は年間5000トンですが、バイオ炭をもっと有効活用できればその1000倍は減らすことができると見積もっています」とも。



環境に良い取り組みを支援しよう

荒れた竹林をきれいにし、その竹でバイオ炭を作り、近くの畑で利用すれば二酸化炭素の排出をおさえながら、おいしい野菜を作ることができます。その畑で育った農産物を買えば、バイオ炭を利用した農業を支援することになるので、みなさんも環境に良い取り組みに参加することができます。



Q. 研究者になってよかったことは?

A. 調査でいろいろな国に行き、たくさんの人と会いました。内モンゴル草原や北極の自然に感動したこともあります。研究の道を選んだからできた、幸せな経験です。

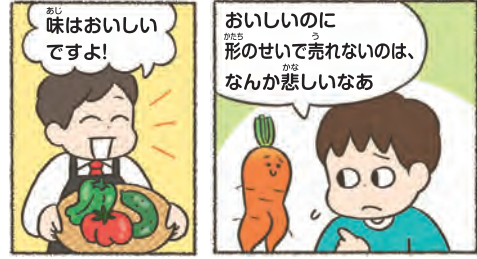
Q. やりがいを感じるのとはどんなとき?

A. 研究そのもののおもしろさもありますが、バイオ炭や生分解性プラスチックといった、社会とつながって直接役立つテーマを扱っていることにやりがいを感じます。

※岸本さんは4面で紹介している北本さんとともに、生分解性プラスチックの研究にも携わっています。

SDGs を実現する消費

世界が抱えるさまざまな問題を解決し、より良い未来をつくるために国連サミットで定められたSDGs(持続可能な開発目標)。この目標を「買い物」で実現に近づける方法があります。みなさんの日々の買い物が、世界を変えていく!?



見た目では選ばないと良いこと

農家は「見た目の良い」果物や野菜を作るため、農薬を使用するなど手間ひまをかけています。たとえば色や形が悪く、見た目

が良くないと農家の人が出荷しても売れないことがありますし、店に出しても選ばれません。でも、それが環境に良い作られ方をした野菜や果物だったらどうでしょうか。

見た目を気にせず環境に良いものを選ぶ人が増えると、見た目を良くするために行われる農家の人の手間を減らすことができるほか、食品ロスの解消にもつながります。

温室効果ガスの排出を減らす農業

農業は食料を得る重要な手段ですが、温室効果ガスの排出源でもあります。たとえばビニールハウスで暖房を使うときや捨てられた食品を燃やして処分するときは二酸化炭素が発生します。また化学肥料や農薬は、使い方次第では環境に悪い影響を

およぼす可能性があります。こういった課題に気づき、環境に配慮して生産する農家があります。化学肥料や農薬をできるだけ減らすように工夫する、捨てられる木材などの木質バイオマスを燃料として使用して温室効果ガスを減らすといった取り組みです。

見た目重視より持続性重視

環境に配慮した栽培方法の果物や野菜は、傷や色、形がおとるものができやすい傾向にあります。見た目を重視すると、これらの商品は手に取ってもらいにくいですが、これからは環境に良いものを選び、持続可能な世界をつくるのが求められます。買う人(消費者)の行動の変化は、環境

に配慮した栽培方法を行う農業を支援することになり、それは気候変動への対策や海と陸の豊かさを守ることにつながるので、「SDGsを実現する消費」と言えるでしょう。



実践! 持続性重視のお買い物

商品を選ぶときは、商品はもちろん、棚や店内も見てみよう。環境に配慮した栽培方法であることが書かれている場合があるよ。



実践 その2 店内のポスターや商品棚の掲示物などを見よう。

